

汚染水発生防止の抜本対策はある!

汚染水海洋放出を許さない!



政府と東京電力は、2023年春に原発事故以来発生している汚染水の海洋放出を決定しました。一方で研究グループや市民団体から海洋放出以外の実現可能な対策が提案されています。12月16日、政府に対しこれらの対策を早急に実施するよう交渉を行いました。

広域遮水壁・集水井を提案

交渉の冒頭、福島大学の柴崎直明教授から、汚染水の発生防止のために広域遮水壁と集水井の説明をしていただきました。この工法は既に国内で地下水を遮水する実績があり、実現可能です。集水井も地滑り対策として福島県内でも実施されており、有効であると提案をしていただきました。

凍土壁は効果がある?

広域遮水壁の提案に対し東電と経産省は、「貴重なご意見として聞かせていただく」とだけ答え、現状の「凍土壁」でも十分な効果があると聞き直りました。発生量が減少したと言っても、今でも毎日140mもの汚染水は発生しています。しかも昨年8月には凍っているはずの壁が13℃に上昇し、公表したのは10月、対策をしたのが11月という杜撰な対応が明らかになっています。汚染水発生を止めずに海洋放出することは、永久的に汚染水を「垂れ流す」ことになり、決して容認できません。

海洋放出準備だけは急速に進む

こうした中、汚染水海洋放出の政府方針に基づき、東京電力は12月20日、県と大熊、双葉の立地両町に対し、海底トンネルなどを建設する実施計画の「事前了解願い」を提出しました。さらに21日、東京電力は原子力規制委員会に実施計画を提出しました。「海洋放出が唯一の選択肢」かのように、海洋放出の準備に取り掛かっています。汚染水の海洋放出については、昨年4月の方針決定後も、撤回や慎重対応を求める意見書が県内28市町村議会から上がっており、県民世論は反対が多数です。

規制庁には「恒久対策ちゃんとやります」

広域遮水壁の提案はこの交渉が初めてではなく、規制庁の検討会において都立大学の橘高教授からも以下のように提案されています。橘高教授「これは前から何度も指摘しているんですけど、あくまで凍土壁は仮設という位置づけだったと思いますので、費用対効果も考えて、しっかりと構造壁に変えていくこと。構造壁にした場合は、もうほとんど流入量はなしということもできます」これを受けて東電は「恒久対策について、しっかりと検討してまいります」と発言しています(令和3年4月19日第90回特定原子力施設監視・評価検討会)。

東電は規制庁に対しては「ちゃんと恒久対策やります」と回答しながら、農民連の交渉では、凍土壁は機能しており、メンテナンスしながら低減を目指すなどごまかしていました。この日の交渉において、長期対策を検討していることを明かしましたが、具体策は明言しませんでした。担当部署に対し、近日常に広域遮水壁の提案と東電が検討している恒久対策を明かすよう交渉を行います。



農民連フラッシュ flash

持続可能な食料・農業確立に向けて

12月5日、第35回福島県農民連定期総会が会場参加とオンラインで開催されました。気候変動、コロナ感染など地球規模での環境の変化が暮らしや農業に大きな害を及ぼしています。持続可能、安心安全、ジェンダー平等などをキーワードに食べる人との共同で次世代へ引き継ぐこと、そのために県内農家2,500戸の組織を目指すことを確認しました。



あたら食農 schoolfarm 初穀堆肥作りました!

多くの肥料が、現在海外から輸入されています。しかし、窒素やリンはもはや簡単に輸入できる状態ではありません。今まで厄介者だった初穀で堆肥を作りました。米糠と土、そして昨年作った初穀堆肥を混ぜれば堆肥が2か月で出来上がります。



福島農民連の電気購入できます!

福島農民連産直農協で発電している電気を「みんな電力」から購入や応援することができます。再生可能エネルギー100%の電気も選択できます。みんなの選択で地球を冷やしましょう。

<https://minden.co.jp/personal/>



二本松発電所